

第 2 回栗東市障がい者基本計画・第 4 期栗東市障がい福祉計画 策定委員会 会議録要旨

日時・場所	平成 26 年 10 月 20 日（月） 午前 9 時 30 分～ 栗東市役所 2 階第 1 会議室
出席委員	中山みち代委員、杉田健一委員、大屋和代委員、太田珠美委員、黒木稔委員、 黒田元吾委員、長谷川すみ子委員、河尻朋和委員、草野とし子委員、太田真弓委員、 西尾悦子委員
欠席委員	村井龍治委員、高畑きぬ江委員、金谷真佐男委員、濱野史恵委員
事務局	健康福祉部部長、障がい福祉課課長、障がい福祉課課長補佐
オブザーバー	㈱日本開発研究所三重
事 項	1. 開会 2. 議事 ①アンケート調査結果の報告 ②団体・事業所ヒアリング調査結果の報告 ③成果・課題整理結果の確認 ④計画の基本的な考え方（基本理念、施策体系等）の検討 ⑤現時点における施策項目（案）の報告 ⑥第 3 期障がい福祉計画における実績の報告 3. その他

1. 開会

- ・ 障がい福祉課長から挨拶。
- ・ 事務局が、委員の半数以上の出席があり定足数を満たしていることから、本日の会議が成立することを報告した。
- ・ 村井委員長が欠席のため、中山副委員長が議長を務めることを確認。
- ・ 配付資料の確認。
- ・ 中山副委員長の挨拶。

2. 議事

①アンケート調査結果の報告

- ・ 事務局が資料の説明を行った。 【資料 1-0～1-2】

副委員長 身体障がい者において高齢者の回答が大半だったとのことで、それをどうみていくかは課題だろう。回収率が悪かったが、計画を策定するのは早くから決まっていたのだから、皆さんの意見を聞き取れるように考えていかないといけないだろう。これらは次回への課題となる。

委員 自由記述意見を読んでいて、小さいお子さんのいる家の悩みについては、20 年前にも言っていたことが書かれていて、何も進んでいないように感じてしまう。エレベーターのことについてもその当時から言っていた。訴え続けてはいるがまだまだだというのが正直なところである。教育のことについても、本当に担当者が理解して取り組んでいっている

事務局 かという、そうならないようにも思う。

事務局 バリアフリーに関しては、本日の午後にも生活交通課の方で現地へ調査に行く予定となっているところである。各課が自分のところの課題だという認識で取り組んでいかなければいけないと考えている。

委員 自由記述意見の5番についても、その当時から話をしていました。障がい児を特別支援学校でみるべきか、一般の学校で一般の子どもたちといっしょに通わせるべきかは、その都度、頭を悩ませながら考えてきている。障がい児教育のあり方について理解をしてもらいながら進めてもらいたい。安易な気持ちでは困る。

副委員長 福祉の担当者がよく変わることで、障がい者に対する理解が深まらないこともあるので、計画の内容とは関係ないが、行政の運営として取り上げてもらえればと思う。

予算もこともあるのでどれもこれもするのは難しいが、まず何をしなければいけないか、そのことをいっしょに考えていただきたい。

②団体・事業所ヒアリング調査結果の報告

・事務局が資料の説明を行った。 【資料 2-1、2-2】

委員 放課後等デイサービスの現状はどうなっているのか。

事務局 参入業者が手を挙げてもらっており、拠点をおいていく予定となっている。市内には元気玉さんもあるが、放課後等デイサービスではない。

事務局 他にも1、2件は相談があった。最終的には未定だが、是非とも参入してもらいと思っている。グループホームも、むつみ園が荒張に古民家を改修して7名で整備を進めてもらっている。

委員 災害時への対応は非常に関心が高く心配されているが、エレベーターの件もそうだが、障がい者の視点だけでなく、まちづくりの視点なかで、他の分野とも連携しながら進めていっていただきたい。市の各課でそれぞれの取り組みを進めてもらっていると思うが、防災面での不安はお子さんも高齢者も不安だろう。避難訓練なども障がい者だけの視点でなく、みんなといっしょにやっていけたらと思う。

副委員長 普通に暮らすということの一環でいっしょにやっていければと思うが、一方で、多動の方や奇声をあげる方もみえるのも事実ですので、2つの考え方でやっていかなければいけないだろう。

いずれにしても障がい者への理解を持った人づくりが欠かせない。私の経験だが、小学校の小さいときから障がい者に関わりを持って大きくなってきた。それはとても大事なことだろう。特別支援学校も必要だけど、それは設備の面でバリアフリーになってくれば、いっしょに育っていきえるも大切である。

委員 グループホームをやっているが、正直なところいくつかの視点で限界もあると感じている。これから先の10年後とかをみたとき、ずっとグループホームで暮らしていくのか疑問もある。グループホームの数を増やしていくのも必要だけど、気の合うメンバーといっしょに学んで、いっしょに暮らしていけるようにするのも重要だろう。障がいのあるなし関

係なく、みんなで「わけわけ」して暮らしていく、そういう形があってもいいのではないか。公営住宅や空き物件をうまく活用しながら、シェアしあいながら暮らしていく、そういう選択肢があってもいいだろう。グループホームの整備は最初に資金がかかるが、賃貸物件でもやり方やお金のかけ方を工夫すればできるだろう。

副委員長 お金がないならないなりの工夫でやっていけることもあるだろう。

③成果・課題整理結果の確認

・事務局が資料の説明を行った。 【資料3】

委員 財政的に廃止した事業がいくつかあるが、廃止したことへの課題認識もあると思う。アンケートにもそれらに関してたくさん出ていたと思うので、それらも課題としてあげてもらえればと思う。

④計画の基本的な考え方（基本理念、施策体系等）の検討

⑤現時点における施策項目（案）の報告

・事務局が資料の説明を行った。 【資料4】

委員 インクルーシブ的な視点を入れて、教育のあり方なども含めながら、身近なところで障がいがあるともなかろうともいっしょに取り組んでいくということが、計画のどこかに示せないか。杉田委員のルームシェアの話もそこに繋がってくると思うので、方針として姿勢を示してもらえればと思う。

委員 内容的には網羅してもらっていると思うが、もう少しイメージできるようにしてもらえればと思う。ご家族などもせっぱ詰まった状態に追い込まれているだろうし、虐待などのこともある。「差別や偏見をなくす」ことは書いてもらっているが、障がい者の命をどう守っていくかがイメージできるといいだろう。災害時のこともそこに含まれてくると思う。

委員 2ページに「障がいのある人の生活を地域全体で支えるシステム」とあるが、このシステムはどのようなシステムを考えているのか。耳障りは良いけど、どこまで具体化するかが見えにくい。システムと一括りにすると見えにくい。

委員 障がい者が就業に結びつかないので、きちっと企業が数値を挙げて取り組むようにしていくべきだろう。

委員 2ページの2つ目については、もう終わっているのであえて挙げる必要はないのではないか。今の時代には即していないように感じる。

副委員長 栗東市の障がい者福祉全体でとらえた形にした方がいいように思う。法律はできたけど、未来に向けて謳うのであれば、これでは弱いように感じる。そういう意味では制度の一元化でなく、栗東市としての考え方の一元化を示して頂くべきだと考える。

- 委員 障がいがあってもなくても、地域の中で「ともに生きる」ということが必要ではないか。なので「ともに生きる」とか「共生」といったことが入ってくると良いだろう。
- 副委員長 「ともに生きる」ということに主眼をおいていってはどうか。
- 委員 「完全参加と平等」よりも「ともに生きる」にした方がいだろう。理念とか方針に入れてもらうのが良いのではないか。
- 委員 1 ページの下段の○4つ目に「住民参加のノーマライゼーションの推進」とあるが、「住民」が気になる。「住民」は取ってしまっていて、障がいのある人もない人もという視点にすべきではないか。
- 委員 2 ページの3つ目について、「地域生活移行」は入所から地域生活へのステップのイメージだが、地域における生活の維持も含むのだろうか。一般の人にはわかりにくいのではないか。
- 委員 理念なので、栗東市として何をめざす、こういうものをやっていくというのを示すべきだろう。今の基本理念は説明をしているだけのように思う。他市町もこのような形なのだろう。
- オブザーバー 一般的には、基本理念では市のめざすところや考えを示し、それを具体化するための、細分化した方針を示すことが多い。今回の資料は、前回の理念をお示ししている形となっているので、資料の内容にとらわれる必要はない。
- 委員 今、守山市のホームページで確認すると、シンプルなものになっている。わかりやすくした方がいだろう。形としては「めざします」といったものの方がいいように思う。
- 委員 障がい者が、どの学校を選ぶのか、選べるのか。本当の意味での自己選択、自己決定をしていけるようにという視点があるといいように思う。
- 副委員長 とともに手を携えあって生きていける、といった視点で、本日の意見を踏まえながら理念を変更していくこととする。
- 委員 3 ページに挙がっている6つの項目について、この6つになった根拠は何なのか。
- 事務局 この基本体系は、前回計画での体系となっている。今回は、防災面などを特出ししていきたいと考えている。

⑥第3期障がい福祉計画における実績の報告

- ・事務局が資料の説明を行った。 【資料5】

- 委員 相談支援については、栗東市は県内で最下位に近い状況にある。課題は大きいという認識もしてもらっているが、ここは力のいれどころだろう。できれば市独自の具体的に後押しするしくみを考えてもらい、当面の2～3年の手だてを検討できるといいと思う。
- 事務局 甲賀市などは100%に近いと聞いており、温度差はかなり大きくなって

- 委員 いる。市としても是非とも進めていかなければいけないと考えている。計画相談についてはそもそもの制度設計から問題があるようにも思う。すべての利用者が相談を受けたからといって大きく生活が変わるというものではない。進めていくことも大事だが、制度面での不具合も現場の意見として国に挙げていく取り組みも必要ではないか。
- 委員 一般の人には知識面で知らないことも多いので、生の声を少しずつでもいっていただければと思う。
- 委員 「みんながともに生きる」「共生」という言葉が出ていたが、早くそうなればと思う。災害時における障がい者の個人情報把握できないのが課題となっている。民生委員としては、何か起こってからしかわからない。どのように見守って、支援していったらいいかが難しくなっている。栗東市でも要援護者の名簿作成を進めてもらっているが、個人情報を知られたくない方も多いと聞く。ともに生きるということだったら、分け隔てなくやるべきだろう。
- 学校に関して、保護者や本人の考えでなく、校長や担任によって特別支援学校にいくよう指導されることもあると聞く。障がい者であっても一生に授業を受けることも大事だと思う。
- 放課後等デイサービスについては、栗東市には少ない。たくさんできることを願っている。

4. その他

- ・他に意見がありましたら、10月27日までに障がい福祉課までお送りいただきたい。
- ・次回の第3回策定委員会は、11月25日9:30から第2会議室
- 第4回策定委員会は、2月6日9:30から第3会議室で開催する。